

ISSA

世界社会保障フォーラム2019に参加して

全国社会保険労務士会連合会副会長
グローバル化推進特別委員会委員長

河村 卓



世界社会保障フォーラム2019

2020年4月に予定されている国際社会保障協会（ISSA）への正式加盟（準会員として）に先立ち、2019年10月に開催された「世界社会保障フォーラム2019」（WSSF2019）への参加要請を受け、連合会大野会長、河村副会長、小野理事（グローバル化推進担当）による3名の訪問団を結成し、10月14日から18日に開催された本フォーラムへ参加した。

ISSAは国際労働機関（ILO）の後援により1927年10月に設立された世界の社会保障機関を会員とする非営利の国際組織で、現在150を超える国と地域の社会保障分野を担う政府機関、中央機関等320以上の加盟機関を会員とし、それぞれの機関がカバーする社会保障の対象者は世界で30億人を数えている。

3年に一度開催される国際フォーラムは、各国地域の社会保障機関が、それぞれの活動報告や技術の情報を発表し、世界が抱える課題に対して議論する場を提供している。2019年の本フォーラムは社会保障行政の大臣、管理者、CEO、上級管理者を含む150カ国以上から1,000人以上の参加者が参加して開催された。

本フォーラムでは、「変化する社会での人々の保護」というテーマの下で、高齢化社会、AIやIoTなどの革新的な技術の出現、世界中の流動移民、ギグエコノミーのような最近の新しい働き方等の各国共通の課題が取り上げられ、技術的な解決や、人口変動や経済変動への革新的なアプローチが求められていることに対して、世界中の社会保障機関が連携して次のステップに向かい、さらに発展することを目

指して様々なプログラムが実施された。

特に本フォーラムを通じて、未来に向かう準備と世界中の人々の社会保障制度による保護を強化するためには、今まで以上にボーダーレスなアプローチが必要とされることが強調された。

本フォーラムに先立つ10月13日開催のISSAの理事会において、連合会の2020年4月からの準会員としての加盟が正式に承認された。



世界社会保障フォーラム風景

現地での活動

本フォーラムでは数多くのセミナー、パネルディスカッション等が開催され、各国が抱える共通の課題、個別の課題に対しての取り組みが紹介され、議論された。

連合会訪問団は、本フォーラム開催期間に、カエターノISSA事務総長、シュレンマーISSA事務局長と面談する機会が設定されていた。席上、大野会長よりISSAに加盟が正式に承認されたことへの謝辞と準会員としての活動に対する連合会の方針について説明を行った。また、社労士制度の概要・活動について説明を行うとともに、インドネシア共和国

(以下「インドネシア」という。)において連合会が主導的役割を担って導入されたBPJSによる社労士類似制度導入への取り組みについての活動実績を紹介した。カエターノ事務総長からは、準会員として参加する連合会に対して、ISSAの事業に積極的に参加し、各国とのネットワークを十分に活用して、円滑なコミュニケーションを図ること、情報や技術の共有についての責務と期待が述べられた。また、インドネシアの成功事例をもとに、アジアのみならず多くの課題を抱えるアフリカ諸国等への社労士の技術援助についても視野に入れた活動を期待するとのコメントをいただいた。



カエターノISSA事務総長、シュレンマーISSA事務局長との面談

ISSAの地域組織であるアジア地区の中の東アジア地域会員による会議へも連合会訪問団はオブザーバーとして出席した。

本会議は、ISSAの加盟機関がそれぞれの地域で効果的な活動をするために組織されたものの一つで日本、中国、韓国、モンゴルの4カ国で構成されている。本フォーラム開催に合わせ、地域事務所を担当する韓国の主催によりモンゴルを除く3カ国20名のメンバー出席のもとで開催された。



東アジア地域ミーティング

本会議では以下の事項が取り上げられた。

①東アジア地域での活動報告

1. 国際フォーラムで表彰を受けた韓国のNational Health Insurance Service (NHIS：社会保障制度の一元化) についての紹介
2. アラブ地区ヨルダンオフィスの研修訪問等

②東アジア地区での諸課題についての議論

1. 2019年11月に韓国で開催するワークショップのテーマについて
2. 来年以降開催予定のISSA Technical Seminar in Seoul について

各国の状況や課題を共有することが重要であるとの認識は共通であるが、ワークショップやセミナーのテーマについては、参加者のおかれた状況が大きく異なることから、包括的な共通項をテーマとして取り上げることなどが協議された。

2018年にアジア太平洋地域でのフォーラムを開催したマレーシアもフォーラムに積極的に参加し、ブースの設置やパネルディスカッションの中でも社会保障制度への適用率や高齢化社会への対応に関する課題について発表がされた。連合会訪問団は厚生労働省よりISSAに出向している現地職員のコーディネートにより、アズマンマレーシア社会保障機構CEOと面談の機会を得て、社労士制度の紹介を行った。アズマンCEOは、インドネシアでのBPJSによる社労士類似制度導入への取り組み導入事例も把握されており、連合会の活動に強く興味を抱かれ、具体的な実務者による協議に発展させることが提案された。

さらに、本フォーラム開催中のパーティ席上でマレーシア担当大臣への面談の機会にも恵まれ、今後は、マレーシアの課題を把握しながら、先方の要請に応じて、関係者の協力も得ながら積極的に支援することを確認した。

その他、連合会訪問団が参加したセッションは次頁のとおり。

参加セッション一覧

■ 10月16日 (水)

優秀な支援：ISSA ガイドラインの6年間の取り組み	
9時～ 11時10分	ISSAガイドラインについての取り組み状況の紹介
管理データとサービス主導のプロジェクト	
12時10分～ 12時50分	世界の年金保険に関するデータベース構築について (日本年金機構の発表)
変化へのイノベーションの力	
14時30分～ 15時15分	イノベーションによる組織改革の事例紹介

■ 10月17日 (木)

ILOの100年：明るい未来への保障	
9時30分～ 10時30分	労働市場の観点からユニバーサル社会実現のためのILOとISSAの連携について (ILOの発表)
変化する社会のための社会保障	
11時～ 12時30分	社会的、経済的及び人口統計的課題の中で、社会保障制度の役割を強化するための取り組みの発表

■ 10月18日 (金)

世界社会保障サミット	
9時30分～ 12時20分	主要な参加者によるパネルディスカッション。労働市場の変化と社会保障の適用ギャップや、社会保障適用範囲外の人々の救済について。
ISSAアワード表彰	
12時20分～ 12時40分	社会保障分野における最も優れた活動に対する表彰式：受賞者はルワンダ共和国
閉会式	
12時40分～ 13時	ISSA世界社会保障フォーラムの閉会式 次回、2022年の開催都市はマラケシュ (モロッコ王国)

今後のグローバル化推進活動

カエターノ事務総長からも期待されているように、世界の人口の半分以上を占める30億人がまだ有効な社会保障制度のサービスを受けられていない状況を改善するために、社労士の知見を活用して、すべての人が社会保障制度を利用できる環境を整備することが求められる。

特に、社会保障制度の周知・適用と保険料の徴収は、一定の制度が整備された国々において次のステップに進むための共通の課題である。

社会保障機関（保険者）と国民をつなぐ社労士のような存在は、これらの課題を解決するうえで貴重な役割を担うものである。我々が50年かけて構築してきた社労士制度は一朝一夕に輸出できるものではないが、各国の歴史や文化、社会状況に合わせてアレンジしながら導入指導をすることにより、相手国の社会保障制度を充実させることはインドネシアにおいて実証済みである。今後は、各国がITの進化を積極的に取り入れることで圧倒的なスピード感をもって制度の構築も可能になると考える。

フォーラム最終日のテーマでもあった

「LEAVING NO ONE BEHIND－REALIZING A GLOBAL COMMITMENT」に示されるように、世界中すべての人が当たり前健康な生活を送ることができる社会を実現するために我々も寄与できる機会を得た喜びと同時に、その責務の大きさを強く感じてフォーラム会場を後にした。

今後は、ISSAの準会員として国際組織の中で期待される役割を果たしつつ、多くの会員が世界の先進情報にアクセスできる環境整備を整えること。社労士類似制度の導入支援については、そのニーズや受入国の状況を踏まえ、関係機関の協力も得ながら連合会として期待に応えられるように慎重に取り組んでいく予定である。